

# 編集後記

▽本号の編集を終えて正直ホッとした気持ちです。年間四回発行の最後の号を、何とか総会前に発行できそうだという安堵感です。しかし同時に、一八号、一七号、一六号と振り返ってみて、内容的にこれでよかったのだろうかという不安も頭をもたげます。「教育情報」は難し過ぎる」「会員個々の疑問や要求に具体的に応えるような内容を」「コラム欄などを設けてもっと親しみやすい紙面に」等々の声が聞こえてくるからです。

本号も、一二ページの制約のなかで、結局目新しい紙面作りはできないでしまいました。

▽子どもの人間らしい発達を保障する教育活動とは何か、子どもを生かし、学力を高める教育実践とは何かをテーマに、二つの実践記録と「てい談」を載せました。率直なご意見をお寄せください。

▽「新テスト」の非教育的性格」は時宜を得た好論文です。「県立図書館の「整備計画」によせて」は本誌のために特に執筆頂きました。(片岡 弘)

▽「資料室」「編集後記」はページ数調整の役目もします。全体を百十二ページにおさえるためです。論文が予定よりふくれ、これらのページ数の減少が通例となっています。

▽季刊雑誌の「教育動向」ですから速報性は望めず、解説性が要求されます。少ない紙幅の中で、何をとりあげるか、どの新聞記事をとるか、選択に迷います。教育六法のうち、初任者研修と大学入試に関する二法が国会を通ったのですが、後者は八木論文に詳しいのでとりあげませんでした。

▽「動向」割当ての二百二十七行をかきあげた時、教員組合北新支部無料借出ビデオ「はだしのゲン」を見終った孫達が、ドヤドヤと加治川の「私設水泳場」(両岸の部落PTAが監視員を立てている)へ走っていきましました。十年前は市で監視

員をたてている市営水泳場が十四か所もありました。現在はたった一か所。目の前の川で泳ぐことのできない多くの子どもたち。

▽農協観光主催経費二万四千円の「東京ドーム・デイズニールランド」旅行に該当学年児童全員いかなければならない雰囲気地域があり、困った事だという手紙が届きました。(若月又次郎)

## にいがたの教育情報 No.19

1988年 8月31日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所  
発行人 長崎 明

新潟市東中通1-86 山崎ビル2F

〒951 電話(025)228-2924

振替口座・新潟4-12332

印刷所 (有)あかつき印刷所

長岡市新産4-4-7